

アフリカ・ディ・シンポジウムにおける石田農林水産副大臣の基調演説

2008年9月9日

オスターヴァルダー国連大学学長、
ムタンゴ・アフリカ外交団長
ご列席の皆様、

本日、アフリカ・ディ・シンポジウムに参加でき、スピーチの機会をいただいたことを大変光栄に存じます。

このシンポジウムを準備されたリカテ・レソト大使閣下及びアフリカ外交団の皆様方に心から感謝の意を表します。

この機会に、食料問題とアフリカ農業開発・支援の重要性、方法等について述べさせていただきます。

本シンポジウムのテーマであります「アフリカの食料事情」や問題の解決に向けた農業分野への支援・連携につきましては、今年の5月から7月にかけて開催されました第4回アフリカ開発会議(TICADIV)、FAOのハイレベル会合、G8北海道・洞爺湖サミットにおいて重点的に議論されてきたところです。

特に、5月末に横浜で開催された TICAD IV において、アフリカの食料安全保障の確保、経済成長を加速化させるための食料増産及び農業生産性向上の重要性、コメ生産倍増をはじめとした取組が、「横浜宣言」などに盛り込まれました。

本日、いただいたこの機会に、これらの会議の成果も踏まえ、昨今の食料問題とアフリカ農業開発・支援の重要性、方法などについて紹介したいと思います。

まず、改めてアフリカ農業・農村の現状にふれてみたいと思います。

アフリカは、GDPに占める農業の割合が26%と大きく、農業が基幹産業となっています。また、農業分野には人口の3分の2が従事しています。このようにアフリカの多くの人々が働いている農業の生産性を上げ、食料生産を拡大することが、食料安全保障の確保とともに経済成長の原動力となると考えます。つまり、農業開発が経済成長、貧困削減の重要な手段であり、農業がアフリカ開発の要であります。

しかしながら、これまでの先進国の支援は農業部門を重視しているとは言えませんでした。アフリカ向けの世界のODAの援助額に占める農業分野の割合をみると、1980年には22%でしたが、2005年には4%にまで減少しています。これまで、開発途上国の農業分野への投資が軽視される傾向にあったということです。もちろん、教育や医療、鉱物資源分野なども重要ですが、最も多くの労働人口が従事している基幹産業である農業分野への支援や投資を増やし、農業の生産性を上げていかないと、食料安全保障の確保、さらには貧困削減、経済発展に結びつけるのは難しいと思います。

世界銀行が昨年秋に、2008年「世界開発報告」として、『開発のための農業』を発表し、農業開発の重要性を報告しています。この中で、「農業によるGDP成長は、他のセクターによるGDP経済成長に比べ、貧困削減という点で少なくとも2倍の効果がある」と述べています。さらに最近の食料価格高騰問題が、農業分野の取組の必要性を改めて世界に認識させています。このような状況の中で、農業軽視の傾向は最近変わりはじめ、貧困削減、経済成長に対して農業セクターの果たす役割の重要性が認識されてきています。この機会を利用して、ぜひ農業分野への取組を強化させようではありませんか。

最近の食料価格高騰問題は、アフリカ諸国をはじめ、食料輸入国に大きな影響を与えています。アフリカは他の大陸よりも土地が痩せているところが多いなど基本的に農業生産のための自然条件が厳しい上に、干ばつの多発や気候変動などの要因も加わり、農業の生産性が低い状態にあります。例えば、アジアのコメ及びトウモロコシの平均単収が4トン程度なのに比べ、アフリカは1.5トン程度とかなり低いです。このような中、人口増による需要の急増に生産が追いつかず、コメなどの穀物の輸入量が増加しており、効果的な農業開発の取組が急がれます。

この食料問題を克服していくためには、開発途上国をはじめとする各国が、農業生産を強化し、食料安全保障を確立していくことが重要です。このことは、6月ローマで開催されたFAOハイレベル会合でも参加各国の共通認識となっています。そのために農業開発の支援を行い、世界の食料の安定供給、食料安全保障の確保に取り組んでいかなければなりません。

これと併せて、我が国も自給率の向上への取組を強化していきます。

アフリカを始めとする開発途上国への具体的な支援は、短期的及び中長期的対策を組み合わせる取組むことが重要と考えます。

まず、短期的取組として、我が国は1億5千万ドルの緊急食糧援助を表明し、このうちの相当部分をアフリカ向けに実施しております。また、問題となっている輸出規制などについては、途上国の困難を緩和するため、国際価格の高騰につながる行為を自粛すべきと訴えているところです。作付け対策として、種子や肥料に対する支援も重要です。

中・長期的支援については、稲の品種改良などの研究開発や栽培技術の普及、かんがい整備、農民組織化、人材育成などが重要と考え、引き続き積極的な支援を行って参ります。特に、アフリカにおいて海外からの輸入が増加しているコメについては、食料安全保障の観点から、また、我が国もコメ生産国で高い生産技術を持っていますので、効果的な技術移転の観点から、その支援を積極的に展開して参ります。

コメはアフリカにおいて、トウモロコシ、キャッサバに次ぐ主要作物ですが、ほぼ自給を達成しているトウモロコシやキャッサバに比べて、自給率が55%とかなり低く、年間約700万トンを入力しており、多額の外貨を輸入に支出しています。昨今の穀物価格の高騰においては、コメの価格の高騰が著しく、アフリカの食料安全保障が脅かされている状況にあります。

稲作は、トウモロコシや小麦など他の穀物に比べて生産が安定しており、特に、水田の場合は連作ができ、持続可能な農業を実現します。さらに、アフリカには稲作に適した未利用の低湿地が多く、コメであれば生産性の向上と面的な拡大の両面から、生産増を狙うことが可能であります。アフリカの基幹産業である農業の生産性の改善を、コメに重点をおいて行うことにより、食料安全保障の確保とともに、経済発展や貧困削減に貢献できるものと考えます。

また、我が国をはじめアジアの諸国は、持続的稲作栽培の長い歴史を持ち、アフリカの稲作開発を支援できる技術的基盤があります。アジアではコメの生産性を飛躍的に増加させ、飢餓、食料不足を回避することができた「緑の革命」の経験があります。この経験をアフリカに活かすことができると思います。我が国は、TICAD IVで表明していますように、国内外の機関などと連携して、総合的な支援を行うことにより、アフリカにおいてコメ生産を倍増できるよう取り組んでいく所存です。

農業生産性の向上や栽培地域の拡大を迅速かつ効果的に行うためには、アフリカの気候や自然条件により適した品種改良などの研究開発が不可欠です。これまでも、農林水産省傘下の独立行政法人である国際農林水産業研究センター（JIRCAS）とベナンにあるアフリカ稲センター（WARDA）が共同研究を行い、ネリカ（NERICA）を含む稲の品種改良に取り組んできました。ネリカはアフリカ稲とアジア稲の両方の特徴を持ち、生育期間が短く多収量性等の優れた特徴がありますが、さらに乾燥に強い稲を開発することにより、干ばつに強くなり、栽培地帯の拡大も可能となります。

また、JIRCAS は、ニジェールにある国際半乾燥熱帯作物研究所（ICRISAT）と共同研究を実施し、豆類のササゲの品種改良を行っています。ササゲは、アフリカのサヘル地帯の貴重な食料であるとともに茎や葉が家畜の飼料として利用されています。人間が食料とする実と、家畜の飼料となる茎・葉の量が共に多い品種の改良に取り組んでいます。つまり、品種改良により人間と家畜の食料安全保障に貢献できるわけです。なお、豆科植物であるササゲの栽培は、土壌を肥沃にする効果もありますので、開発の効果は大きいものがあります。

先にも述べましたように、アフリカの大部分の土地は痩せていて、農作物の生産性が低い一つの要因となっています。しかし、化学肥料の自給率がアジアの60%に比べて、アフリカは10%程度と低く、しかも価格がアジアの2倍と高いので、アフリカの農民が化学肥料を入手し利用するのが難しい状況です。このため、アフリカの農民が現地で入手できる安価な資材で土壌の肥沃度を改善できる技術を開発することが重要であり、このための調査研究を進めていきます。

アフリカの農村において、生産や流通・加工・販売の過程で、また、生産現場での水管理を効率的に行うには、農民の組織化活動が重要な役割を果たします。我が国が蓄積してきたノウハウや技術を移転することが効果的と考えますので、農民リーダーや行政担当者の育成を通じこの分野の支援を行います。

貧困削減や経済成長を達成するためには、「売れる農産物づくり」が重要であり、我が国は2005年12月の

WTO 香港閣僚会議の時に「開発イニシアティブ」構想を打ち出し、後発途上国諸国(LDC)からの輸入について無税無枠にするとともに、生産の現場から販売までの支援をしています。これらを南南協力などの方法によりさらに支援して参ります。

我が国は、TICAD IVやFAOハイレベル・会合を通じて、食糧問題とアフリカ開発の重要性について参加各国と議論して参りましたが、そのことは、7月の北海道・洞爺湖サミットにおいて対アフリカODAの増加の必要性の言及につながっております。

このような状況を踏まえ、日本が持っている技術やノウハウを最大限活かして、アフリカの農業の生産性を向上させ、食料安全保障の確保、そして農業がアフリカの経済成長の原動力となるよう支援に取り組んで参ります。

最後に、本シンポジウムを通じ、アフリカの農業開発の重要性が認識され、アフリカ自身のオーナーシップと、それを補完する支援の連携が強化されることを期待するとともに、食料問題の解決に向け、最大限努力することをお伝えし、私のスピーチといたします。どうもありがとうございました。